

- 基礎代謝エネルギーの確保を -



石井 紫郎

東京大学名誉教授

本 誌に「東京大学に対する応援、叱咤激励等のメッセージをエッセイ風に」書いてほしいという依頼を受けた。本誌は1999年創刊で、すでに十二号まで刊行されているという。そのつどご恵送に与っているのであろうが、失礼ながらあまり印象がない。しかも、法人化後最初の発行となる本号から、このようなOBからの「メッセージ」の欄を定期的に設ける、ということなので、さしずめ、よく知らない相手との試合にトップバッターをつとめるような気分である。相手投手の球筋をよく見極めるべきか、初球から打って出るか、迷わずにはいられないが、自分らしく、とにかくバットを振ることにしよう。

私の心配は、近ごろ「法人化」という概念が一人歩きしている嫌いがあるということである。「法人化」によって何がかわるか、は自動的に答えが出る問題ではない。早い話が、フランスやドイツの大学は、つとに国または州の機関でありつつ、法人格をもっている。

日本の大学の「法人化」についてもこれと同じ選択肢があったはずである。しかし結果としては、特殊法人の自己増殖抑制と管理強化のための制度として考案された「独立行政法人」に類似点の多い「国立大学法人」となった。

「独立行政法人」が国からの独立性を獲得し、自由度が増したなどは到底いえない。私も、この種の法人を評価する立場と、される立場の両方を経験して

総合科学

義で飛び出してくる世の中である。「法人化」
のではなく、「法人化」がいかなる制度的枠組
境の中で行われるのか、それがもっとも深刻
なのである。

、誤解しないでいただきたい。私は、大学が
「環境」に置かれることに反対ではないどころ